

# 第21回 MASセミナー 巷

「日本的メンタリティとは」

日時:2016/3/5(土)  
講演:14:00~16:00



「もののはれにみる日本人」

現代日本は長寿社会であるのに子供達が  
祖父母や先達に生活のなかで直接おそわること  
が急速に少なくなってしまうことを残念  
に思う。それは核家族というありかたや、コ  
ンピュータによる文明のおおきな転換による  
ことがおおきい。こういった状況だが僕はこ  
れからも日本人のなかにひきつがれているメン  
タリティとして『もののはれ』という自然  
観をもちつづけていてほしいと思う。何も  
語らないものへの情趣こそ、日本人の魂と思  
いたい。住まいと庭園のありかたにはお国柄  
もあるが、自然観の表れとしての日本の四季  
おりおりの楽しみ等は今後  
復活したいものである。



今井 均



「KY」ですね、やっぱり。

「空気を読めない奴」というのが凄く嫌われ  
るでしょう？ それも逆もあって、いろいろ  
難しい。  
ちょっと自己主張すると、もうやばい場合も  
多い。「こうしたい」と言うと反応なし。で  
はと始めると「勝手にやるなよ」と。  
言葉上の気配り KY のむずかしさもある。  
「なかなかお宅に行く機会が無くて申し訳な  
い」と言った時、「来てくれと言われている  
わけでもなく、申し訳なくもないのに、申し  
訳ないというのは相手に失礼。何だろうと  
思って引いてしまう」となるのか。「申し訳  
ない」が軽い挨拶と取られない場合を知らな  
い？設計打ち合わせでも、KYな建築家は  
いい仕事が出来てもつまづきやすい？



大倉富美雄



「伝統芸能と日本人」

歌舞伎や落語といった江戸時代の庶民芸能  
の生の舞台に、最近不思議な魅力を感じま  
す。江戸時代の当時の遊びやユーモア、倫  
理感、美学などの感性はとてもユニークで、  
テレビドラマの時代劇より、いっそうリアル  
に日本人の古いメンタリティを感じて安  
らぎます。

今の時代、「日本的メンタリティ」という  
とネガティブな言葉ばかり浮かんでしまう  
この閉塞状況を克服し、日本人としての誇  
りを取り戻すのは、伝統的な美的意識と遊  
びの要素に、可能性があるかもしれないと  
思います。



田口 知子



日本人の精神的な支えと存在した宗教は薄  
れ、宗教に頼らない日本人。

冠婚葬祭はハレの儀式として存在するが、  
クリスマスや正月の飾り付け、お盆の祭りや  
灯籠流しはすべて季節のイベントとして  
商業や経済活動に盛り込まれ、精神より経済  
が大事になりつつある。

これが現代社会が考えていることだとすれ  
ば、日本人のメンタリティはどこへ・・・  
「自然との対話」は、現在の残された数少な  
い日本人のメンタリティか？



宮田多津夫

「国際化と日本人のメンタル」

ここ10年程、可能な限りヨーロッパで新年  
を迎えることで、日本の立ち位置を定点観測  
しています。この数年日本の存在感が薄れて  
いると感じていましたが、今年はさらに例の  
事件で日本人が皆無に近い状況となっていま  
した。他国の旅行者は変わらず来ている中で、  
日本の閉ざされた世界での報道の在り方と即  
反応するメンタリティに驚くばかりです。現  
代の日本は突然爆発的にヒットしたあと一瞬  
で冷めるスピード型消費社会であることは良  
い意味でも悪い意味でも特徴です。島国で程々  
人口があることがガラパゴス化に拍車をかけ  
ていることは周知のことと思いますが、これ  
から国際化が進む中でシャイな日本人がどう

していったらよいか  
をまちづくりの視点で  
早急に考えないといな  
い時期だと思います。



村上晶子

「向こう三軒両隣のメンタリティー」

日本人は、近所付き合いについて向こう三軒  
両隣を大切にしているメンタリティーを持っ  
ている。家の玄関前を掃除する時は、道路も  
一緒に掃除をする。雪かきも同様、皆が一  
斉に出てきて家の前の道路の雪かきをす  
る。おばあちゃんが住んでいる場合は、隣  
の若者が、おばあちゃんにはしんどかろう、  
と一緒に雪かきをしてあげる。この良さは、  
都会では消えかかっているようだ。この  
すてきなメンタリティーを取り戻す街づ  
くり、建築づくりが求められている。



連健夫